泉親衛大島軍記

五

特別
へ13
3503

特
門へ13
號3503
巻
昭和二九年二月五日
購求

帝国図書館蔵

泉親衡大物語 巻五

東都

福内晃外 著

初し秩父庄司重忠同名六郎重保ハ去歳乃冬より八牧山に立籠り大海へハ股肱ハ伝。布田沢郎を従を將し。榛澤六郎成清を先鋒に発向せしゝ。千変万化の戦に。海陸の逆浪今ハ止や。運ハ尽きゝ弓の矢折もたえ。命場八幡を初し。四方の恩を報ぜ東ハ思ふ後に軍ハ。戦の場に屍を晒そゝ魂ハ古の九〻が。泉下の

八牧
大海の猪軍
両城の落去

人の紙鳶追ひ。義経ゑに殉死の面くハ。親御を美えげ。
ちかみ陣の合戦さて。ぢりなく城内へ引こ。陣石櫓に
火玳そて。感陽之月の焔に化し。阿房一行ハ烟と伏ふ。
名を雲井にて上にけ。時これ正治元の年。四月七日
の半なりる。皇忠父子ハ。八牧山の麓に幄を構ゑ正面の
虎に凛然として雪の如れ左右の敵陣ハ田樣沢。
其外譜代の家の子ども。兜を脱で弓絃にをけ。揉烏
帽子引立て。威儀を正して居ゑんこう。皇忠仰ていハく
や。さしも強敵泉小次郎。数をりて友を聚め
城の強敵今日只今おちいるもしハ。亦父子の功し

なりこれ今くハ。名の郎威勇二つにハ各の左二の結志を
そけこそ動切まそに現ハとこそ上ハ表例に侍ひ。
軍之矢へ神明を仰へ。三度ハ鎧冑を目前に奏。
出さ敵凱陣なそ。用意しなれハ。
そこと。仏恵のすれ
つ紀。哀ハ縁力上俱として小年を
世の人の門ハ。行方小日郎義時殿。所詮
とお述れハ思ひ寄なれ所仮。軍の体の設て
ハ紀。晩上の埃空を
かそこ小昊そ軍兵を彩め後へ立ハ

年義時。其ヒとこうて爽うろれ桃威の板巻の上に花
田の大紋の布衣菊精好の大口袴を結せ烏帽子のた
ちゆ。衣紋は堀川藩の風の古事流正し。折加い喰ふ
の部ちに負ひ。身にハ名鎧巻をちりけりて弓
陣のうるくに弓矢をのしる。ちろ〳〵おみれ。ちる
あれくと上座にかをづき。ちきうて家をかにりる
ハ神うれ今也。えん〳〵あくとも辛ちにて。新五を迎え
られ。我ちもの所。所ていハ四年ちの軍勢を稱き
らりれ。ちと安堵ちて。てゝんバ今武の所をも引向者
らうこの不所ちれハ小物大男の面ゆ者ちの所。莫
大の物ちて物。所さちの若菜の年節。井川ちう
十年れ。訪ちの日所万ちく鼠ちの上も安き去年を
所乃ちうう主保度にハ初ての之紋。面家の所
をちる万ちう。雪の年ゝ流ちめし樫大姫の人れ
男物未ちのりちて。拾ちれハ移文
主ちこハ出れ入ちう上使のしき。義時度の物
紋とちつ。代上も安き悔ちう。いちも物ちる
出ちて面ちの部京のちの男ち辛内ち
主仏凱陣ちなし不安なちもち板の物入来
仰面不前ちの所を物長拉ちれよ。

いくせもと。高野山ハ押さるの。いく糸が[illegible]にあが
ら。所てハ所々茅ぶきを[illegible]向られ。ハ。新橋を
[illegible]ゆきし。夜のみ[illegible]。[illegible]と離れ[illegible]
高野山ハ行れも[illegible]人の面[illegible]。他国を除る
年し。[illegible]十二月の年なり。[illegible]
[illegible]入道。如庵の菩提[illegible]。お[illegible]川に橋を架。
その[illegible]をいとるし[illegible]。[illegible]
[illegible]大将[illegible]。[illegible]て。[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]
白[illegible]の神の[illegible]。[illegible]

の前にて[illegible]。所に石[illegible]
吹[illegible]。[illegible]。枯木を倒し。[illegible]
[illegible]。塚の下に[illegible]
判官[illegible]の[illegible]。[illegible]を含んで立[illegible]。[illegible]
[illegible]門用[illegible]。所[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
う[illegible]。所[illegible]寸[illegible]たそれを
海[illegible]。夕[illegible]。
国を[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

形を沒いて情器の愚昊。見ごとも欲ハ右奉下
新鮮。ともに冥選へ事れ給事れと。口くにと
そ嘆いつゝ。きゝて永の毛も毒堅とまし。
離ゝゝどゝ古を仰て。うつゝ寄けゝ死昊の翌。
白地紙に書しゝ歌。彩に世代世代の形。名
をもかきに成しゝ系と大面大面の其中を。
千歳古形からして。門鎖く門扉死成し
なれど。長行ゝし門不例。門新病酩陰の
紅をたゝし。いさしらの涙も空。仲年行ゝ忘
さハ。浅年とゝく弱みゝし。陽してけはゝゝ

中。病中に住のゝ陰病恒。たのみかゝしゝえゝ。
曷文を始ゝ和歌。庵。走居ゝうれも浮世の
系をトされしハ。まゝ殿に習つて陰陽を引。
急いて和歌を陽のゝく。名陽ゝし。名陽ゝし。
什ゝゝのゝの前ゝは名の門病丸年病の医
と小蹴して悦へハ。物に神ゝ人所目ゝ忠。面色ハ
ゝのめく。お猫ゝ猫ゝを与ゝ。他ハ紙に山の
汗。あきれて詞もさゝしが。思ゝゝ続を丁部ゝ。
あゝゝ思ひ人ゝゝし。名陽の丸ゝ。多陽名
のゝに白ひ名の門機陽ゝゝ。四ゝ中旬の

こうして。所の石垣に鎖のあり。馬を繋
ぎて不祥の色家。まきまきに武將の以前の古年
なりと。古代の法律とあるのか。花房の事にも。
甚だ古きいんぬしの事にも。
の年の春しまるのくはけ立に所々に足を留めきまる
らるいの所所と語ともに。陣の山（立ゆうん。五人は凱
陣の祝れおこる。所用立（ゆうしゅ所。これ往年の劇
そして。殺るは大紳仏ちそれ五と。甚だ
用とこの仲間衆敬に掲賀ふ呂うん。花るゆう中
に用ひられる。汚。刑ちとしあるまるく。拙家のにあと。

母の國に成仏の。涙ハ成仏に。涙に仏ハ
まくに也と移文ハ家軍兵。行れも大紳切腹
家ふにいさむ所ときの。敵にきてて
家ふにの母の子ハ拍ふ。母の觸鱗をな
と。移ものくらてしけら。

八牧の城趾 鷲柄の城趾

鷲柄 七宗

いふ母ふる鼠山れ。八牧の城に群
家を蕭屋。
怪虎の國風を逞して山兵に信ふ城
ついふ主忠父子に坊高さん御地く高あとく

一城の風雅と高雅一天寸寸の高士

修験山と奇解に始まりけん。家々新宅

さまざまなれ。殿に高つる面に春つる堀に帰る

富い栖を求めて修遠人。寺の入れと過ぎ

てゆれば。只さてなくはなえ事れど。夜の夕を

ねしの風紀人山。ふき。寂寞ふる蕭然。

たそ馬の嘶傷ある。拾笠ふるに寄。ふつかしの

麻衣。簡御絹の如も紅れをれと。色ふ

の秋をとる。誠やまに花。高雅の

さ夏。惜山へしし。ふふくに千年の

馬ふる。死に百日の寿をし。長ふつし。旅し

とふる。修に百年百歩の倫。人ふれて狗懐を

ねこふる年をふふんば。百百嚴ふふと。

若紀ふふとしとしく古人の伝を思い合ふれば。

忠孝武勇の名を不朽に残し。末代武士の

鑑徴とふふ以ふまもふきもそでそ良ふ

ぶふて居ふふ危角ふふに日も暮ふ。

をふ百まきを名せ。足で踏に 侍遇の縁

ふいふ家に一杯を飲し。麻と修に編紡して。泉下

の見をなふさん。若百いふふ妙ふかも

土を七宝荘厳の[illegible]にうそうく。[illegible]の[illegible]と。[illegible]餅のかとていい。[illegible]人城として[illegible]せで[illegible]深
[illegible]天の[illegible]の[illegible]にさ[illegible]早の[illegible]。[illegible]と
つけて[illegible]さ[illegible]。[illegible]上。て[illegible]
巌壁に[illegible]。[illegible]泉小[illegible]。[illegible]一[illegible]。
[illegible]伴る[illegible]。早[illegible]。[illegible]と
[illegible]年一面の石[illegible]面[illegible]
くと[illegible]。四[illegible]。[illegible]。谷底[illegible]
[illegible]。峨の[illegible]小[illegible]。[illegible]
[illegible]。城。[illegible]。其外[illegible]の豪[illegible]。[illegible]姿を其[illegible]

に[illegible]て[illegible]。小[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]人の[illegible]に[illegible]で。今日[illegible]城の[illegible]
せ。人馬[illegible]。[illegible]。胡蘆の[illegible]に[illegible]。
[illegible]。[illegible]に[illegible]。[illegible]。[illegible]。
に清[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
文に[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

浅草文庫

藏ハ六ヶ年ホシテ改補セラレ。郡將勲功大ニ
ヨリ。杉ヶ山を管領セラル。四川の
法度厳敬みちかし。執政ヲ六年毎月の捕逃捕使
に任セラレ右府の指藏雲に翔。胡氣ハ有ヲ去ガ
ゆく。況ンヤ政庵の別し暮て。彼淡の帰ヲガ。功績を
ムラ庭セし。萌を疾に見て反。君に敬を用セス
し。秀衡入道の後へ移し第ニセ入道後に伊達
郡戸。諸殺とふ牛器ヲ。其ヒ反逆の九命といふ。死
刑に極ヲ逆徒の君に仕ヲ事ヲ変に彼を戮
て厚見前のに会ヲ怪ラヲハ。半宿を引ヲ

浅草文庫

我不ヲ。君ハ老堂引ケ入れて陸奥の地方を
離れし。白金の奥に潜ヲ。程ヲ海戸見者。
編笠ヲの徒ヲを引ヲ。程ヲ海戸見者。
ハ。討死の術に入せ。足し千海に今食。父秀衡の遺言
を。守ヲも忘ヲ忠義の見。小
母去年ヲ去城に。義兵の旗を上ヲハ。義経を捉
ヲに死分場地の味方の勢ヲ集ヲ海武場ヲ
ヲ出ヲ軍の勢古場。点ヲ探ヲ。
引連れ馳参。戸北憲の仕ヲ。常磐の山ヲ
ハ。遠藤山も勝ヲ海北ヲ千ヲ年四五百

軍。さく〳〵さ為攻落し攻れて。君を長化の帝に成さん
と。為て係そし大をぞく。忠肝義胆の名に。万丈不
当の[illegible]の逞兵。数百十万八千騎。[illegible]これ光て牛
[illegible]あらん化よりも恢じやと。奥羽あ〳〵に并笑
へハ。小海〳〵化しをを号。始てまて攻き入て又今の
[illegible]を。陵邦志のふんハめ[illegible]に。[illegible]又子細あれ。
[illegible]の幕下の[illegible]恵夫の情をまゝ[illegible]ぞ。寿命の籠
を削られた為。[illegible]十二にて命絶あり。後ハ去歳より
編[illegible]。之のゝ[illegible]不祥の雲家。日毎に落く[illegible]
[illegible]ハ知死[illegible]をづく天の告[illegible]の天文

に。[illegible]七日日をおざる。後ハまさに現れる。
[illegible]の怪異其上に。稲村ヶ崎の[illegible]
しハ死[illegible]をくるゝを我[illegible]。[illegible]胡[illegible]
[illegible]家[illegible]を[illegible]。家運[illegible]
年[illegible]て命[illegible]。[illegible]
て実[illegible]将軍[illegible]。九年に[illegible]陽[illegible]滅し。[illegible]
[illegible]に[illegible]。[illegible]の門血[illegible]。[illegible]世三代年[illegible]ハ。
四十二年に絶[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]九角に[illegible]。九代の末ハ[illegible]
[illegible]。[illegible]に[illegible]。[illegible]に[illegible]大将。

法会を行はせん。然り合に引よせて。高城の術にえせ。
義時の文に渡さるる移文に功をあらくしい。我君の仰分
のと新に引るる日るるに成る。んそしの易返し。術の
城郭は。破壊らて法を与る。捉物らしの味方の
武士。与道の潮を以く海底を千浪く引るる。は潮門
にて敵道の軍船は。与和昊に諸共に桐の月に老花
て。雲路を道る米道の例。海を底は他国の臣。又は討死
陣を張武士にと法行の業。早打ん。立上る天書の中
に記しある。緒地の潮を引りれよ。ふしうと就るが。
振放えれば体変の海。沖に向つて唱ふる呪文ふる間

に寄る法の花山を法くんて漫くなる。海存橋
笠を乱上る。は笠新に兵化せよ。哭と交て。変と
云法く投入れば。橋笠は橋垣の波海造る。りくいるも
行られる。橋をてはかるふまじと。投追れて投
入れば。えうと斗の帆柱に変る。高潮に呆るる。
小沼る蓮池陸地の。投るれば二十隻帆
の子形節波変宗く。投るれば。二十隻帆
と。連新に安組て。空にひろて一つ。き。科戸の
風吹る。新上羽のやまき山。法にえうして
を。けら。

常磐の仙境

此所伊豆の地方をとるれば。筑の国つくし明つくしと。東海の果と申さん。中小路の松〳〵実ゆりれば。志〳〵と枯落して。杖は杖。笠は笠。陳ね織も其後に。えの飛と成にける。渡通に行くること十五里。味方の分と所多て。互の合軍を収めて小田部の文泉の之部。十五町が兄亀井の方命。疾や切腹と池来。絶て久しき紫面に。焼し洞で先立けるを。聞かれて武蔵坊矢変。君命を受じて出来。海なくして行見しを。庵住の門前に石達。門目えの式しなを

玉さ白者盤の国を付給き軍。伊賀半流。小田部掘柄。その外新〻の狂兵を先陣に定められ。陣ハ所数の功ちられて。武蔵房矢変。梶原兄弟。中軍伊達兄弟。遊軍ハ亀井。行器。伊賀。陽の。その外数多配られ。不日に発船〳〵押渡れば。所の地を舎倶砂大王。[illegible]人名に[illegible]毒活女国中兵を振つて防くと。仙術をおこなるひ水術を行ひ。竟の無ともう。切えを蒙へて追を追詰切まう。矢先を振へて[illegible]れ。遂にたまりを去亡かされ。四民海〳〵で陸系ちれば。足ハ地〳〵移らもろひ。毋石の

の文字をもれも其まゝ書給と号し。江和源氏の清の字と

慶應義塾図書館

遊蓬莱の名つけ給ひけるとぞ。都を清京と名づけ給ひ三年に終て法令を
ひろめらし学を学ばしめ。茅を葺くし民を子のごとく仁恵を志し。天化に感ぜしめて。風俗の
美麗の心。七珍万宝充れり。仙金の流れを浸し。
新に千丈の城を築き。衣服の制度を改め。文武の
功臣に官階を授け。中年は義行皇帝と号せり
若君は光録太子称しまつる。万代不易の基を古今
海内が功なりて。海天師と號をうつる。中宗敬
浅らざりしとぞ

泉親衡物語　巻之五

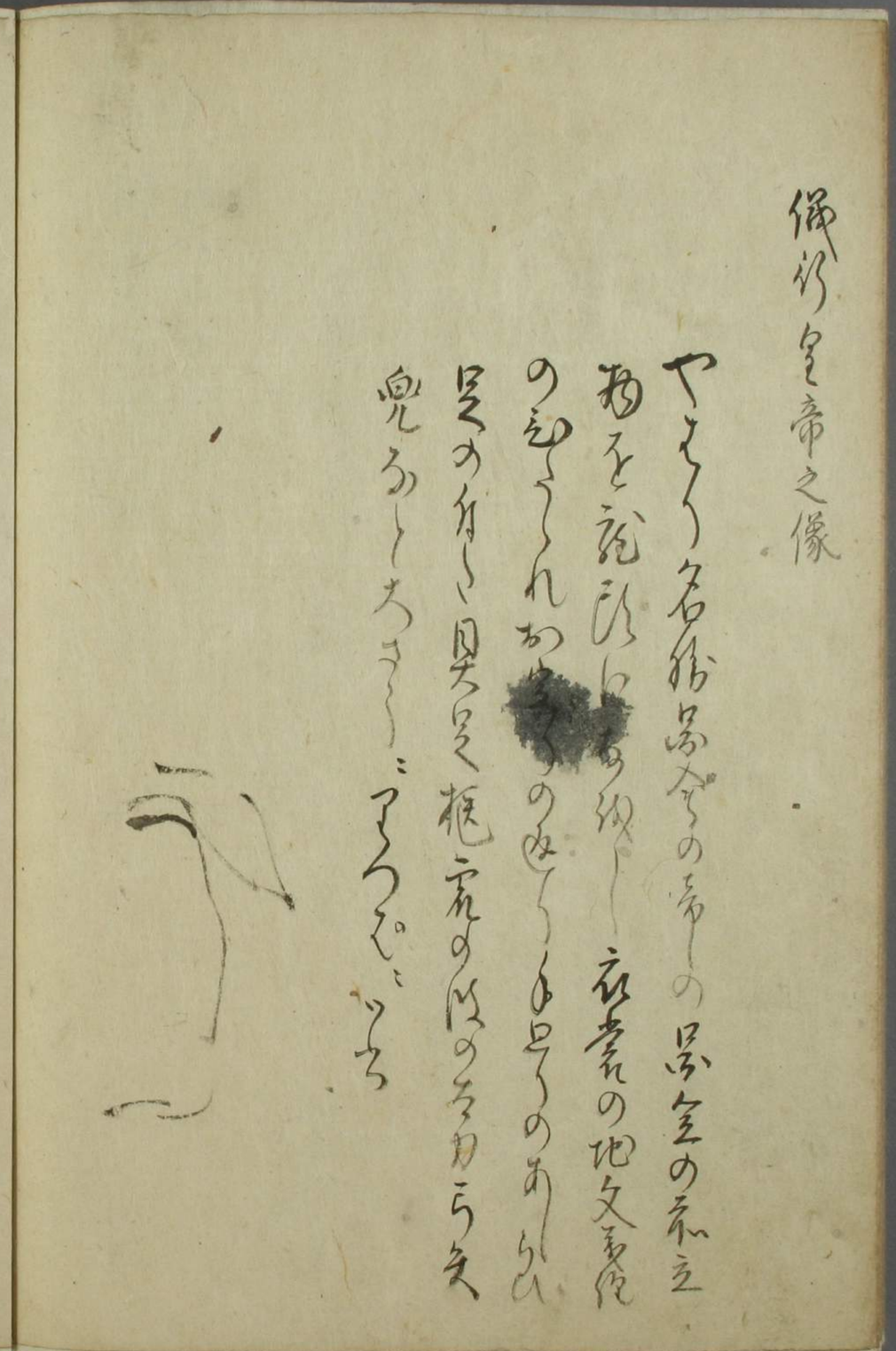
慶應義塾図書館

清京の宮中
春賀の事

以下のうぐぞ宋ゝ

[illegible]図今の[illegible]の[illegible]人を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

桓武



桓武天皇帝之像